

平成31年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・外国人留学生特別選抜）

入学試験問題（小論文）

注 意

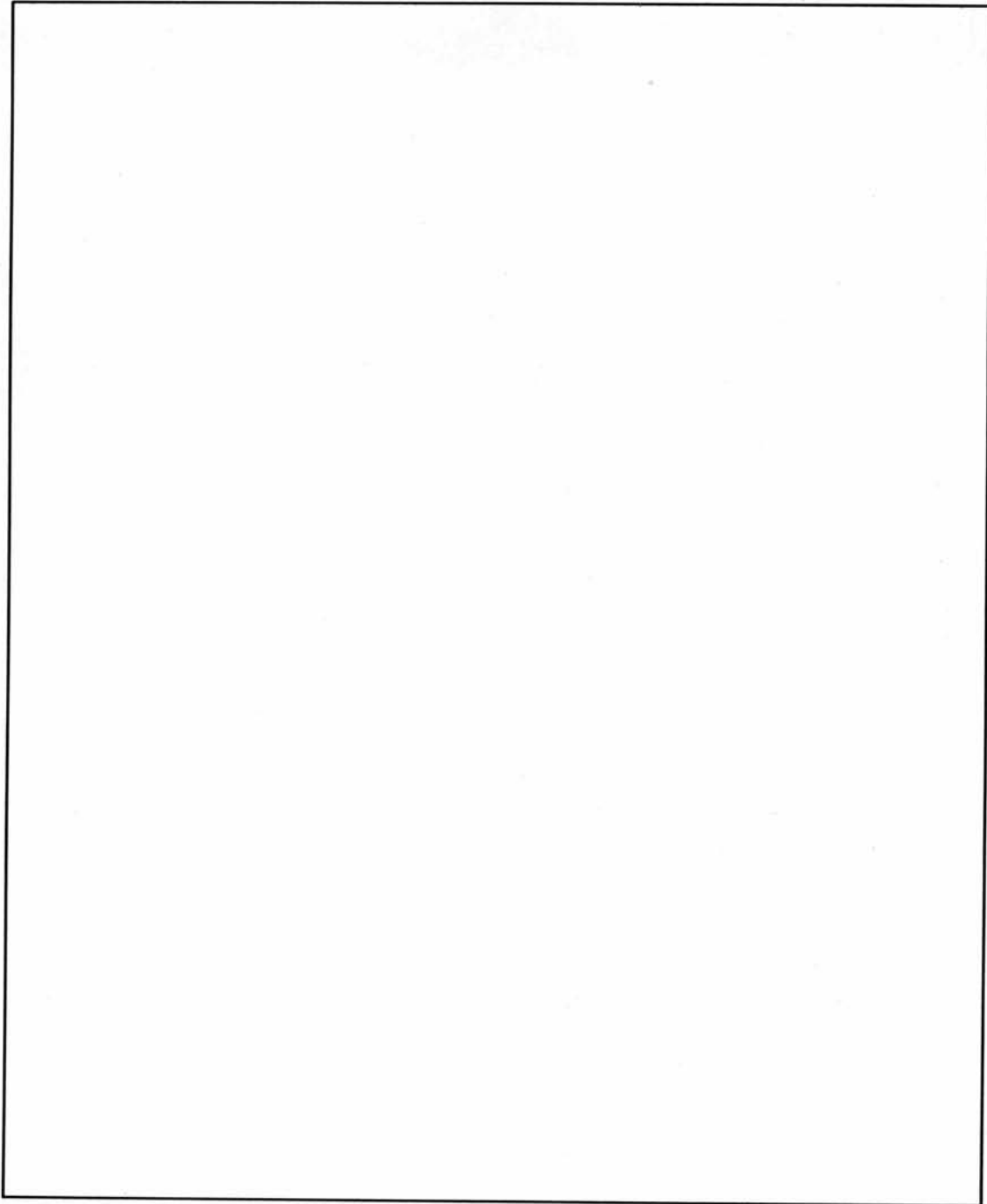
- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は4枚(表紙を除く)、解答紙は4枚。
- 3 設問Ⅰ(1)(2)、設問Ⅱ(1)(2)の解答は、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問 I

下の文章を読んで、次の間に答えなさい。

- (1) 筆者は、なぜ今日の日本が「対話や討論のない社会」になっているとみているのか、簡潔に論じなさい。
- (2) ①こうした社会の風潮に教育はどのように関係していると思われるか、②こうした風潮を越えるには何が求められるのか、あなたの考えるところを論じなさい。

ここへ当該文献が入ります。



暉峻淑子『対話する社会へ』（岩波新書、2017年1月）より作成

設問Ⅱ

以下は、内閣府が行った調査「子供・若者の現状と意識に関する調査（平成29年度）」*の報告書の一部である。これを読んで以下の問に答えなさい。

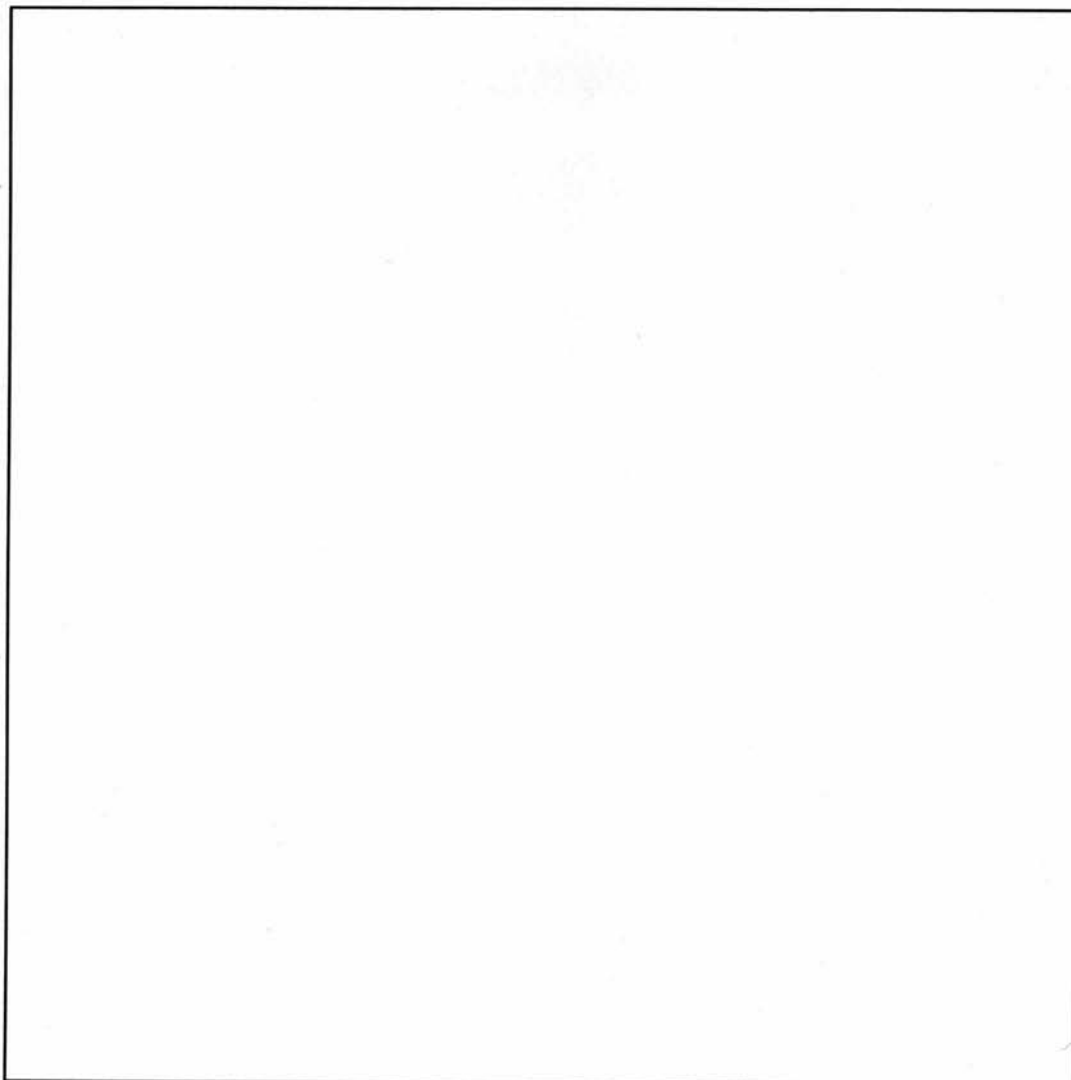
- (1) どのような属性の者に就労不安が強いのか、この文章に即して答えなさい。
- (2) 若者の就労不安に対して学校教育がなしうることについて、あなたの考えを述べなさい。

ここに、

古賀正義（2018）

就労不安と働き方・ライフコース 子供・若者の現状と意識に関する調査
（平成29年度）報告書 内閣府 pp.145-146 （一部改変）

が、入ります（図表1、図表2、図表3含）。



古賀正義 2018 就労不安と働き方・ライフコース 子供・若者の現状と意識に関する調査
(平成 29 年度) 報告書 内閣府 145-146. を一部改変
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h29/pdf/s3.pdf> 2018 年 8 月 21 日アクセス

*子供・若者の現状と意識に関する調査 (平成 29 年度)

調査地域：日本全国

調査対象者：16 歳から 29 歳までの男女

調査時期：2017 年 10 月 27 日から 11 月 13 日

調査方法：有効回答数を 10,000 サンプルとし、インターネット調査を実施